

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	コミュニティケアペンギン		
○保護者評価実施期間	令和6年12月18日		～ 令和7年1月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	令和6年12月18日		～ 令和7年1月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	鹿児島県の中で2番目の人口を誇る地域で、唯一の医療的ケア児・重心障害児の療育機能を持つ事業所として行政・医療機関・教育期間等と密な連携と情報共有を図り、利用児・家族の将来を見据えた支援を提供すること。	他のサービス提供事業と密な連携と情報交換を行い、利用児の日々の行動の変化や個別支援計画書に基づいたサービスを提供し、将来のあるべき姿に向かって支援をしていく。	家族・きょうだい支援を含め、地域の中の個人として、自立支援、利用児・家族本位のサービス提供を行い、利用児を取り巻く環境に対して、他事業所と協力しながら一体的な支援を行っていく。
2	利用児1人1人のケアやサポートを統一している。	安心、安全を基盤に色々な事に挑戦する大切さも取り入れた支援を実施している。また、ケアやサポートの統一性を図ることで、日常生活を楽な姿勢で過ごせる。	関係機関とケアやサポートの共有を行い、利用者の意思の尊重、社会参加、交流の促進、意見促進などの充実を図る。
3	将来を見据えた支援や年齢に応じた支援を専門職が検討して提供を行っている。	意思表示を専門職が評価し、自己決定が出来る場面を作り、個々が自己決定できる場面を作っている。また、余暇の支援の充実が図れるように「行ってみたい・やってみたい」事を自己決定して実施している。	将来を見据えて、意思の表出の評価や選択肢などを関係機関との連携は図ることで、より質の高い表出の評価と自己決定の場を提供する。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害時に備え、定期的な避難、救出などの必要な訓練を実施した後のご家族への報告が行き届いていない。	・避難訓練は年に2回以上実施しているが保護者様へ伝達不足がある。計画時は説明をしていたが、訓練前に全体的に周知する方法や、個々に説明する場を計画に盛り込んでいなかった。	非常災害に向けて年間計画に盛り込み、実施前に前には月間予定表や非常再訓練計画書を配布して保護者様へ周知する。また、訓練の様子などを「月間だより」やSNSで発信し改善していく。
2	事故マニュアル・緊急時対応マニュアル・防災マニュアル、感染症マニュアル、訓練の報告を保護者様へ周知、説明する機会が少ない。	契約時にマニュアルについては説明をしていたが、マニュアルを詳しく説明する機会を設けていなかった。	年に3回以上実施する保護者会やイベント事で説明をする機会を作り、質問等もお受けしていきます。また、訓練を実施する前に保護者様へ訓練計画書を保護者様へ共有する。
3	定員が5名ということもあり、個別・小集団の活動提供はできているが、集団活動においては課題となっている。	児童発達支援と放課後等デイサービス合わせて5名定員の為、小集団での活動となる。利用児の身体状況に合わせた支援が必要となり、個室の部屋と生活スペースを分けており、集団で活動できる環境はある。	個別や小集団の活動を中心に行い、学校や地域交流の機会でも集団に参加する機会を提供する。